

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	福島っ子松本留学事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人まつもと子ども留学基金
事業区分	(1) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,872 千円 (うち支援金: 1305 千円)

事業内容

東日本大震災とそれによる原発事故による放射能汚染の影響が懸念して被災地を離れてきた子どもたちがのびのびと過ごすことができるよう、地域の住民との交流を深めることにより地域も元気になれることを目的として事業を実施した。

○見学会・宿泊体験会：東日本大震災の被災者が松本市四賀地区にある子ども寮と通学校を見学。周辺地域で自然体験を楽しんだり、寮への宿泊を体験した。

○地域交流事業：「自然療法の手当て法講座」を開催して、地域の住民と交流しながら、自分で身体の不調を手当てできるセルフケアを学んだ。

○宿泊体験用に空き家（離れ）のシャワー、洗面台を設置。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

○宿泊体験用の設備を整備できたため、被災地からの参加者が希望する日程に合わせて寮へ宿泊してもらい、周辺地域の自然体験をのんびりすることができ、地域の人たちと交流する時間が増えた。参加者も9家族44人と大幅に増加した。

○被災地から留学してきている子どもたちのために、地域の皆さんが食事作りに来てくれたり、行事に誘ってくれたりして交流するうちに、理解や支援が増え、子どもたちが安心して、元気に過ごせるようになっている。今年度は島立地区でも健康講座を開催したところ、40人もの地域の人が参加してくれて交流することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

住環境が改善され、地域住民との交流が進んでいることによって、子どもたちが安心して生活できている。そのことを、被災地で大きくアピールして、今後も留學生の募集、受け入れを継続していく。また、子どもの健康状態が改善され、留學生が松本の高校への進学することが増えた。それに伴い、親が被災地から移住するケースを増やしていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【「離れ」宿泊自然体験】

【目標・ねらい】

- ①震災で被災した子どもたちが安心して生活すること
- ②子どもたちが元気になること
- ③過疎地域の活性化をはかること
- ④被災地の復興に貢献できる人材を育成すること

※自己評価【 B 】

【理由】

概ね、期待していた効果が得られた。特に被災地からの見学者は大幅に増えたが、留学事業の拡大が課題として残ったため。